

令和7年度 学校経営構想（案）



浜松市立佐鳴台小学校

1 国及び市の方針

（1）国の方針

○教育の目的（教育基本法第1条）

「人格の完成」「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」

○義務教育の目標（学校教育法第21条）

十の具体的目標

- ・ 自主、自律及び協同の精神、規範意識、公正な判断力を育成すること
- ・ 生命及び自然を尊重する精神並びに環境保全に寄与する態度を育成すること
- ・ 我が国と郷土を愛する態度、国際社会の平和と発展に寄与する態度を育成すること
- ・ 家族と家庭の役割及び衣・食・住・情報・産業等の基礎的な理解と技能を育成すること
- ・ 生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を育成すること
- ・ 生活に必要な数量的な関係を正しく理解し、処理する基礎的な能力を育成すること
- ・ 生活にかかわる自然現象について科学的に理解し、処理する基礎的な能力を育成すること
- ・ 健康、安全で幸福な生活のために必要な習慣を養うとともに、運動を通じて体力を養い、心身の調和的発達を図ること
- ・ 生活を豊かにする音楽、美術、文芸等について基礎的な理解と技能を養うこと
- ・ 職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと

○学習指導要領

- ・ 育成を目指す資質・能力の三つの柱
「知識及び技能」…「何を理解しているか、何ができるか」
「思考力、判断力、表現力等」…「理解していること・できることをどう使うか」
「学びに向かう力、人間性等」…「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」
- ・ 「個別最適な学びと協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業改善の推進
必要に応じた重点的な指導と個に応じた学習活動・学習課題の提供
多様な他者との協働
主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善

（2）市の方針

○浜松市教育推進大綱

- ・ 市民協働によるひとづくり
- ・ 子どもの学びと育ちを支える環境づくり
- ・ 創造性あふれるまちづくり

○第4次浜松市教育総合計画

(令和7～16年度)

【基本理念】

描く夢や未来の実現

【方針】

- ・方針Ⅰ 自分や浜松の未来を創る人づくり
 - 政策1 情報活用能力の育成
 - 政策2 多様なニーズに対応したこども・保護者への支援
外国につながるこどもの学びや支援の充実
- ・方針Ⅱ 安全・安心で魅力ある環境づくり
 - 政策3 教職員がいきいきと働ける環境の整備
 - 政策4 学校安全の推進
いじめ問題への対応
- ・方針Ⅲ こどもの学びや育ちを支える連携・協働
 - 政策5 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
家庭教育支援の推進

2 学校経営構想

(1) 校訓 「佐鳴の心 勇気 友情 勤労」

— 勇気を出せ・友達思いであれ・働く汗を流せ —

(2) 学校教育目標 「つながる力を育み、よりよく生きる佐鳴の子」

(3) 学校経営にあたって

「VUCAの時代」(不安定・不確実・複雑・曖昧な時代)という言葉が、教育界において聞きなれないと思っていた数年前から今現在まで、ほんのわずかな間に、VUCAの時代を生き抜く力を育てることが、教育界における一つの命題になった。先の見えない予測不能な時代を生き抜かなければならない子供たちに、どのような力を育んでいくべきか、それを見極めていくために、我々教師は常に「不易と流行」を見定めていかなければならない。

○自己肯定感を高め、自信をもって自分の考えを発信し、他者の考えを受け入れ、更に高次なものを求めて、連携・協力していくことのできる人

○時に、不条理なまでに激しい変化に翻弄されることがあっても、仲間と励まし合い協力し合って、粘り強く努力し、難局を乗り越えていける胆力とコミュニケーション能力をもった人

○生活様式やワーキングスタイルの大きな変化、コミュニティの在り方の急速な変化に流されることなく、様々な手段を用いて、人とつながることを楽しみ、人とかわること、人の役に立つことに充実感・達成感を感じることもできる人

このような人を育てていくこと、そのために必要な力を養っていくことは、どのような時代が変わろうとも、決して変わることはない教育界における「不易」であると考えている。

これまで、佐鳴台小学校では、一貫して佐鳴の心（勇気・友情・勤労）を大切にしていた教育活動を推進してきた。この「勇気」「友情」「勤労」の3つを貫く軸を「人とのつながり」ととらえ、これからも、多文化共生社会の担い手としてよりよく生きる人づくりを進めていく。

（４）佐鳴台小学校を取り巻く地域の特性

学区は、佐鳴湖の東岸から台地にかけての起伏に富んだ地域である。樹木が多く自然環境に恵まれ、四季折々の季節感豊かな地である。また、周辺には、蜷塚遺跡・入野古墳・伊場遺跡等名所旧跡が多く、歴史的にも恵まれている。

昭和30年代頃から原野と農耕地に開発の手が加えられ昭和40年代には、個人住宅やアパートが建てられ始めた。現在では、協働センターをはじめとして、郵便局等の機関や各種商店が立ち並び、生活環境は整えられている。また、公園が整備され、街路樹も美しく、住宅街としての景観を呈している。

近年、外国につながる児童が多く在籍する傾向にあり、「様々な国籍・文化・習慣をもつ児童が通う学校」の校風が定着してきた。子供たちは、言語の壁、習慣の壁を乗り越えて交流し、共に学ぶ雰囲気醸成されてきている。

（５）佐鳴台小学校の教育課題

- 全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現し、基礎的・基本的な学力の差を広げないこと（知）…学びをつなぐ
- 多文化共生社会を支えるために人権感覚を磨き、いじめを許さない学校風土にすること（徳）…心をつなぐ
- 自分で考えて命を守る行動を身に付けさせること（体）…命をつなぐ

3 目指す子供像

- 様々な考えをつなげ、自分らしさを大切にして、よりよい生き方を模索していく姿
- 人とのつながり（協働）の中で多様性を尊重し、自他の人権を大切にする姿
- かけがえのない自他の命と、そのつながりを大切にする姿

4 目指す学校像

地域と共にある 佐鳴の心の響きあう学校〈自立と共生を目指して〉

5 目指す教職員像

- こどもの自分らしさを受け止める教職員
- 愛情と情熱、規範意識を持ち続ける教職員
- 専門性と指導力を磨き続ける教職員

6 学校経営推進にあたって

- 学校にかかわる全ての人の命を大切にする。
- チーム佐鳴台として教職員の和と力を結集し、組織が有効に機能する組織的・協働的な学校運営を行う。
- 発達支援教育の理念を根幹に据え、一人一人の教育的ニーズを探り、適切な指導・支援を考えて寄り添う。（子供の多様性、個性の違いを価値あるものとして、互いを受容し合う温かな雰囲気）
- 学校・家庭・地域等がチームとして、協働して児童の育成に取り組む。
- 全職員でカリキュラム・マネジメントをし、教育活動を常に精査する。
- 教育DXの推進による個別最適な学びと協働的な学びの更なる充実と、教職員の事務処理の効率化

7 特色ある学校づくり

○さなレンジャー	勇気・友情・勤労 3つの心の啓発 ※ 児童会のキャラクター ※ SDG s 推進の基盤（心）
○響き合うさわやかな挨拶	孤立しない・させない（自助・共助） 小・中でのあいさつ運動 「小さな親切」運動静岡県本部協力校（R5・R6）
○いじめ予防プログラム	いじめ対策コーディネーター・担任からの話しあわせスイッチ、アンバランスパワー、シンキングエラー等について 児童会活動・委員会活動（はままつマナー）
○企業と進めるキャリア教育	モデルとなる多くの大人との出会い 仕事の準備として軸をつくる。 キャリアアンカーを育てる協働授業
○構成的グループエンカウンター	人間関係づくり活動とスキルの習熟 多様な仲間との対話（やさしい日本語）
○クラシック・アート	本物の文化・芸術との出会い （音楽・アート等に包まれた環境）
○学校学習支援サポーター さなレンジャーPEACE さなレンジャーSAKURA さなレンジャーSMILE	保護者・地域人材による学校学習支援サポーター
○クラブ活動	多才な講師によるクラブ活動 保護者・地域住民によるボランティアの導入
○生花教室	昼休み 日本文化にふれる体験 貢献活動（校内展示）
○レッツさんとの交流	昼休み インクルーシブ体験
○放課後外国人指導	地域人材による放課後の外国人学習サポート